

第3回 新たな経済成長戦略策定に向けた懇話会 議事概要

■日時：平成30年7月24日（火）18：00～20：00

■会場：仙台市役所本庁舎2階 第二委員会室

■テーマ：成長産業支援

■参加者（敬称略）：

仙台市長 郡 和子（座長）

株式会社SRA 東北 代表取締役社長 阿部 嘉男

トライポッドワークス株式会社 代表取締役社長 佐々木 賢一

東北大学大学院工学研究科情報知能システム研究センター 特任教授 舘田 あゆみ

株式会社メンバーズ ラーニングプラットフォーム室長 早川 智子

エリクソン・ジャパン株式会社 取締役カントリー・オペレーションズ・ジャパン統括本部長 林 雅音

CData Software Japan 合同会社 代表社員 職務執行者 疋田 圭介

株式会社NTT ドコモ 執行役員 東北支社長 藤原 道朗

東杜シーテック株式会社 代表取締役 本田 光正

（進行役：仙台市経済局長 遠藤 和夫）

- 次第：1. 市長挨拶
2. 参加者自己紹介
3. プレゼンテーション
4. 意見交換

■主なご意見

【ICT人材の確保について】

- ・ 仙台にはクリエイティブな人材が活躍する場が不足している。そういう仕事をしたい人は仙台に残らない。
- ・ 即戦力となる人材は、東京からのUターンがほとんど。東京に出て修業した人材が仙台に戻ってくるきっかけ作りが大事。
- ・ 首都圏では業界内の人材の取り合いが激化しており、育てた人材を大手企業にとられることが多くなっている。地方に拠点を構えたことで、人材の確保・定着につながっている。

【コミュニティについて】

- ・ 採用は東京のコミュニティから直接引っ張ってきているので、困っていない。IT業界におけるコミュニティの存在は人材獲得において非常に重要。
- ・ 成長意欲のある社員ほど、刺激的なコミュニティを求めて東京へ行ってしまう。優秀な人材を仙台に定着させるためにも、仙台に高度なコミュニティが必要。
- ・ 人の成長を1つの企業だけで囲い込むのは難しくなっており、コミュニティ全体で鍛える、その場を提供していく必要がある。適度にコンパクトな所が仙台の良い点であり、その利点はコミュニティづくりにも生きてくると思う。

【首都圏企業の仙台への進出について】

- ・ 首都圏で災害が危惧されているため、BCP がしっかりしているなど、東日本大震災を経験した強みが企業の仙台進出の決め手になるのでは。
- ・ 企業を誘致するだけでなく、その後のフォローを如何にするかが大切。
- ・ 大手企業が仙台を選ぶとき、東北大学の存在は大きな決め手となっている。東北大学と連携して、「学術イノベーション特区」のような大きな枠組にチャレンジしてはどうか。

【企業間連携について】

- ・ IT ベンダーは新しい技術にトライするパートナーを常に求めている。仙台市がハブとなってその連携を促進することが大事。
- ・ 困り事がある企業を集めると、解決に向けて IT 企業との連携が生まれる。市には今後もそのバックアップをお願いしたい。
- ・ 一次産業でロボットなど ICT 技術を使いたいというニーズがあっても、そこに必要な処理を覚えさせて動かす、というシステムインテグレーションをする企業が少ないため、せつかくのニーズに対して ICT が普及していないのが現実。

【その他のご意見】

- ・ 日本の自治体は海外と比べてオープンデータ化が進んでいない。仙台が日本で最も進んでいるくらいにオープンデータ化をすれば面白いのでは。
- ・ IoT やドローンを活用した実証実験は、既に全国で進んでいる。スモールスタートでもいいので本番で動かしていくことが他地域との差別化につながるのではないか。
- ・ 成功しそうな企業を目利きできるのは、その世界の人間のみ。公平性だけではなく、「ピンとくるか」で判断できる人材を市の側に入れて、仙台の IT 産業化をリードしてもらおうくらいの気持ちで考えるといいのでは。
- ・ 企業がどの自治体と事業を一緒にやるか、どの自治体に進出するのか、その最後の決め手は首長の本気度である。

以上